

**戦略的創造研究推進事業（社会技術研究開発）**  
**研究開発プログラム「コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン」**  
**平成22年度採択プロジェクト企画調査 事後評価結果報告書**

1. 研究代表者：佐藤 真一（大阪大学大学院 人間科学研究科 教授）
2. プロジェクト企画調査の題名：自立高齢者の健康維持・増進と社会参加・社会貢献を包括するプログラム指針の検討
3. プロジェクト企画調査期間：平成22年10月～平成23年3月

4. プロジェクト企画調査の概要：

本企画調査では、研究開発プロジェクトの提案に向けて、自立高齢者を対象としたエイジングに関する自己学習、健康維持・増進トレーニングプログラム、および社会参加・社会貢献を包括したプログラム（以下、包括的プログラム。）の概念枠組みを明確にし、包括的プログラムへの参加が高齢者の健康寿命増進と幸福感向上をもたらす論理的根拠を示すことを目標とした。具体的には、1) 高齢者の食生活、運動機能、口腔機能、認知機能に関する先行研究のレビューによる健康維持・増進トレーニングプログラムの有効性の検討、2) 地域住民の健康や社会参加に関する意識とニーズ把握のための住民調査、3) 包括的プログラムの意義等について検討するための地域団体関係者へのヒアリングを実施した。

5. 事後評価結果

5-1. プロジェクト企画調査の目標の達成状況

当初の計画は大変幅の広いものであり、計画本来の持つ包括性や統合的支援がかえって曖昧となる傾向にあったことは否めない。しかし、限られた時間の中で、高齢者の食生活、運動機能、口腔機能、認知機能、社会参加に関する先行研究のレビューや住民調査については、かなりの進捗度合いで実施され、きちんとした纏めがなされており、企画調査の目標に対して一定の成果が得られたものと評価できる。ただし、これらの調査を通して概念枠組みの再整理が行われたものの、依然として不明瞭な点が残されており、この結果が包括的プログラムの理論的根拠につながるとは考えにくい。また、自己学習と社会参加・社会貢献の概念、具体的プログラムの内容、包括的プログラムの評価方法、研究開発プログラムを対象地域で実施する意義についても明確に示されるには至っていない。これらの点について、まず領域の異なる分野の研究レビューの基本的な方法論や評価法を詰め直すことが必要であろう。そのうえで、本研究の特徴である「包括」というキーポイントについて理論的・実相的な検討をより深めることが重要である。

5-2. 研究開発プロジェクトの提案に向けた準備状況

高齢者の食生活、運動機能、口腔機能、認知機能、社会参加の各分野における先行研究のレビューはかなり行われており、着実な成果がある。しかし、それらの結果から、本企画調査が構想する研究開発プロジェクトについて、「コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン」という点での新規性・先駆的独創性が十分に示されたとは言い難い。また、研究開発プロジェクトの実行可能性として、健

康に関わる個別のプログラムの実施と評価は可能であろうが、自己学習、社会参加・社会貢献を含めた包括的プログラムの実施については、評価方法も含めてさらに詳細な検討を行わなければ実現は難しいだろう。一方、これらの包括的プログラムを実施する地域との協働体制の整備については、町内会、老人クラブ、民生委員といった代表者とのコンタクトはついてきていると評価できる。ただし、地域全体としての協力体制の整備は十分ではなく、対象地域で研究開発プロジェクトを実施することの意義から再検討し、新たな協働体制を設定することが必要である。

全体として、企画調査の計画段階では個人の健康度や幸福感の向上の比重が高かったが、報告書においては地域の活性化（住民の気づきや地域全体での支え合い）により比重がかけられている。これは、本領域における目標から鑑みて好ましい目標の変更であったといえる。